

2023年3月10日（金）公表

日本ランキング対象大会（スプリント競技、ランクA）



2022年度 全日本オリエンテーリング 選手権大会 大会報告書

2023年2月4日（土） スプリント競技部門

第15回全日本オリエンテーリング選手権大会（スプリント競技部門）
The 15th Japan Sprint Orienteering Championships 2022

開催地 栃木県真岡市 栃木県井頭公園

会場 井頭公園 自由広場

▶公式成績表は大会 Web サイトにて公表しています。

日本最速王者決定戦



©o-albums

ご挨拶

第 15 回全日本

オリエンテーリング選手権大会

(スプリント競技部門)

実行委員長 瀬川 出



2月4日(土)に2022年度全日本オリエンテーリング選手権大会(スプリント競技部門)を栃木県井頭公園にて開催いたしました。大会当日には天候にも恵まれ、2月としては非常に暖かく好コンディションで大会の開催となりました。本大会には438名の方にエントリーいただきました。多くの皆さまにスプリントを楽しんでいただけたことを運営者一同喜ばしく思います。

本大会のコースは、井頭公園を存分に活かしたコースになっていたと思います。特に選手権クラスの選手には、井頭公園が誇る一万人プールを存分に走っていただきました。スプリント競技は他の競技と異なり、選手の走り、しかも本気の真剣勝負の走りを間近で見ることができるのが大きな特徴です。選手の皆様には、それがプレッシャーに感じることもあったかと思いますが、うまく自身の力に変えていただけたのであれば嬉しいです。同時に、観客としてご覧いただいた皆様には、選手の走りから感じられた何かを自身の力に変えていただければ幸いです。

さて、かつて私が在籍していた大学クラブでは、「思いは行動に変えてこそ価値のあるもの」と先輩が部誌に記していました。いつからか、それは私の信条の一つとなりました。第13回は残念ながら開催ができず、第14回も年度を跨いだ形での開催となり、この第15回でようやく、一つの思いを少しは成し遂げられたと感じています。それは「スプリント競技はもっと、おもしろい。オリエンテーリングはもっと、おもしろい。」ということです。本大会で、何かしらの思いや意志を得た方は、是非それを行動に変えてほしいと願っています。日本のオリエンテーリングシーンに占めるスプリント競技自体のプレゼンスを高めていかなければ、スプリント競技の全日本大会は継続しないと考えています。参加された皆様の意志あってこそ、だと思います。

皆様から頂いたアンケート内容や運営者内での反省を活かし、次回以降より良い競技、大会を提供できるように努めてまいりたいと思います。最後になりましたが、大会開催にあたって多大なるご理解ご協力を頂いた公園関係者の皆様、スポンサーの皆様、荻田育徳さんを始めとする栃木県オリエンテーリング協会の皆さま、ならびにご関係者の皆様に、この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

後援・協賛・パートナー

後援

スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、公益財団法人日本オリンピック委員会、栃木県、栃木県教育委員会、真岡市、真岡市教育委員会

協賛

有限会社ヤマカワオーエンタープライズ



JOA オフィシャルパートナー

かなめ測量株式会社、株式会社アークコミュニケーションズ、株式会社リテラメッド、サルミングジャパン、株式会社ニチレイ



1 大会概要

▶参加者数

441名（選手権クラス102名、選手権クラス以外336名、体験会3名）

▶天候

月日	天気概況 昼（06:00～18:00）	降水量 [mm]	平均気温 [°C]	最高気温 [°C]	最低気温 [°C]	日照時間 [時間]
2023年2月4日	曇時々晴	-	3.8	10.3	-0.8	7.5

※気象庁の過去の気象データ検索より（<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>）引用しています。

▶救護案件およびその対応

- ・捻挫の疑いのある選手が1名。アイシングの措置を行いました。

▶選手権クラス入賞者

ME				WE			
順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	橘 孝祐	ES 関東 C/日曜ロングランナー	0:16:02	1	稲毛 日菜子	練馬 OLC	0:16:39
2	二俣 真	京都大学	0:16:07	2	松本 萌恵	神大 OLK	0:17:24
3	橋本 遼佑	神大 OLK	0:16:11	3	近藤 花保	名楯 OLC	0:17:34
4	伊藤 樹	設楽町/ES 関東 C	0:16:22	4	伊部 琴美	OLC ルーパー	0:17:58
5	入江 龍成	トータス	0:16:31	5	樋口 佳那	筑波大学	0:18:27
6	根本 啓介	京葉 OL クラブ	0:16:34	6	皆川 美紀子	みちの会	0:18:37

▶選手権クラス特別表彰

ME 特別表彰 学生				WE 特別表彰 学生			
順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	二俣 真	京都大学	0:16:07	1	松本 萌恵	神大 OLK	0:17:24
2	橋本 遼佑	神大 OLK	0:16:11	2	近藤 花保	名楯 OLC	0:17:34
3	入江 龍成	トータス	0:16:31	3	樋口 佳那	筑波大学	0:18:27

ME 特別表彰 18歳以下				WE 特別表彰 18歳以下			
順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	吉岡 皆那人	麻布学園 OLK/横浜 OL クラブ	0:21:14	1	山本 美沙	練馬 OLC	0:29:54
2	-	-	-	2	-	-	-
3	-	-	-	3	-	-	-

1. 大会概要 (つづき)

▶年代別クラス優勝者

クラス	氏名	所属	記録
M21A	種市 雅也	練馬 OLC/杏友会	0:16:15
M30A	谷川 友太	-	0:15:43
M40A	小暮 喜代志	ES 関東 C	0:16:11
M50A	松澤 俊行	松塾	0:16:03
M60A	井上 仁	OLC レオ	0:19:10
M70A	小林 二郎	入間市 OLC	0:15:05
M80A	尾上 俊雄	OLP 兵庫	0:20:18
M90A	高橋 厚	多摩 OL	0:41:25
M20A	木明 拓玖	筑波大学	0:17:50
M18A	中村 涼太	県立千葉高校	0:15:25
M15A	水野 舞人	県立千葉中学校	0:17:15
M12	水嶋 竜也	入間市 OLC	0:13:13
M10	-	-	-

クラス	氏名	所属	記録
W21A	世良 史佳	入間市 OLC	0:18:35
W30A	-	-	-
W40A	高津 寿三鈴	Club 阿闍梨	0:19:50
W50A	小林 正子	ES 関東 C	0:18:17
W60A	渡辺 加与美	入間市 OLC	0:20:56
W70A	山本 陽子	ES 関東	0:19:08
W80A	石田 美代子	愛知 OLC	0:37:05
W90A	-	-	-
W20A	藤澤 ゆい	神大 OLK	0:21:10
W18A	山本 瑛里	渋谷で走る会	0:26:58
W15A	-	-	-
W12	-	-	-
W10	源後 彩乃	みちの会	0:26:55



1. 大会概要 (つづき)

- ▶ 成績速報およびラップ解析を Lap Center に掲載しています。

成績速報、ラップ解析

<https://mulka2.com/lapcenter/index.jsp?event=7474>

- ▶ 選手権クラスの実況の録音を Twitter に掲載しています。ぜひお聞きください

選手権クラスの実況

<https://twitter.com/i/spaces/1DXxyvoNVnNKM>

- ▶ 大会当日の写真を公開しています。ぜひご覧ください。今後の広報活動等に利用することがあります。

大会当日の写真（日本オリエンテーリング協会）

<https://photos.app.goo.gl/wbjdoVaH6PYWn6mdA>

大会当日の写真（o-albums 様）

<https://photos.app.goo.gl/D1FvP5LBpoAaSsQv8>

- ▶ 寄附者限定オンラインセミナーと本大会を選手や運営者と振り返るオンラインセミナーを日本オリエンテーリング協会 YouTube チャンネルにて公開しています。ぜひご覧ください。

寄附者限定オンラインセミナー

https://youtu.be/h_kTpybadQ

JOA オンラインセミナー「全日本スプリント 2022 振り返り（リフレクション）」

<https://youtu.be/Ta9A7ZRro-w&t>

JOA オンラインセミナー「全日本スプリント 2022 ティーチン」

<https://youtu.be/rzqOeUcKfcM>

2 調査依頼・提訴

競技責任者 鈴木 璃土

本大会では、調査依頼・提訴はありませんでした。

3 課題と反省

実行委員長 瀬川 出

全日本オリエンテーリング選手権大会（スプリント競技部門）の継続性

▶大会収支

昨年度大会と比較し、参加者が 156 名増加したことで、参加費収入や大会関連収入は約 45 万円増加したが、コロナ対策による補助金や協賛金が約 30 万円減少したことで、収入全体としては約 15 万円の増加に留まった。一方で、昨年度の反省を活かし、一般公園利用者に安心いただけるよう、安全対策やオリエンテーリング体験会を実施する運営者を増員したことで人件費が増加し、支出全体としては昨年度から約 20 万円増加した。このため、昨年度大会同様、日本オリエンテーリング協会（JOA）の自己負担金は約 50 万円程度となり、依然として大会の収支は厳しい結果であった。今後の大会の継続的な開催のため、少しでも JOA の自己負担額を減少させる必要がある。

支出について、実行委員会としては現時点で必要最小限であると考えている。競技の公平性や競技エリアの安全性を確保するための試走経費や当日の人件費等を削減すべきではない。そこで、健全な収支に向けて、収入を少しでも増やす施策を 2 点提言する。

1. 参加費収入の増加
2. 参加費収入に頼らない収支構造への変化

1 点目の施策は、参加者数の増加、参加費の値上げによる参加費収入の増加である。本大会は昨年度大会から参加者が 156 名増加したが、さらに 250 名以上参加していれば、JOA の自己負担額は発生しなかったと見込まれる。今後も質の高いコース・競技を提供し、競技者からのニーズに応えた魅力あるスプリントの大会を継続的に開催し、大会への期待感を高めて参加者数を増やすことが重要である。大会参加者向けのアンケートにて参加費の価格帯について聞いたところ、学生の参加者は参加費を高いと感じている一方で、一般の参加者は大きな不満はないことが窺えた。このアンケート結果をもとに、今後の参加費について検討していきたいと考えている。また、本大会も多くの寄付を頂いたことを、改めて心から感謝申し上げる。

2 点目の施策は、参加費収入に頼らない収支構造への変化である。競技エリアによっては参加者数の制限をかける必要が出てくる可能性がある。また、本大会では競技エリアや開催時期の都合で予選の開催を断念し、選手権クラスの参加費収入は昨年度大会から減少した。そのため、今後は何らかの助成金や協賛金の獲得や、黒字が見込める大会とともに複数日大会として開催し単日では赤字を許容できる体制を構築することも選択肢に加える必要がある。現在、JOA では、大会運営のための補助金として JSC くじ助成金を年に 2 件まで利用でき、そのうち 1 件を全日本ミドルロングに、もう 1 件を全日本リレーに利用している。どの大会に利用するのか、基本的に JOA 理事会で決定される。大会参加人数によって助成金対象となる大会が決まるわけではないが、全日本選手権大会のうちスプリント競技は最も参加人数が少ない。助成金対象を目指すのであれば、スプリント競技の重要性がより浸透していかなければならない。なお、助成金対象となりうる大会は Foot O だけでなく、MTB O、Ski O、Trail O を含めた 4 種目の中から 2 大会である。

3. 課題と反省 (つづき)

全日本オリエンテーリング選手権大会 (スプリント競技部門) の継続性 (つづき)

▶スプリント競技のプレゼンス

下記は昨年度大会の報告書に記載した文章であるが、再度掲載する。

大会の継続にあたり、日本のオリエンテーリングシーンに占めるスプリント競技のプレゼンスを高めていく必要があることにも触れたい。

2022 年度の世界選手権大会で伊部選手が決勝に進出し、フット・オリエンテーリングの中で世界でも高順位を獲得するチャンスがあるのはスプリント競技ではないかとも言われている。尾崎選手はスプリント競技一本に絞って世界に挑むことを公言し、長らくトップアスリートとして日本のオリエンテーリングシーンを牽引してきた。

一方で、ベテラン競技者を中心に競技者にその魅力が十分に伝わり切っていないためか、他の競技よりも全日本大会の参加者数は少ない。それを人気不足、の一言で片づけるのは浅はかではあるが、スプリント競技のプレゼンスが低いことで、金銭面・技術面・競技運営ノウハウのバックアップ体制がフォレスト競技よりも乏しいことは否定できないだろう。世界でも活躍できる余地をトップアスリートが見出しているにも関わらず、全日本大会の開催は厳しい状態が続いている、このギャップは非常にもったいない。

特に若手選手がスプリント競技の面白さや重要性を日本のオリエンテーリングシーン全体に対して訴え続けることが非常に重要であると私は考えている。スプリント競技はフォレスト競技と比較して種目そのものが若い競技である。競技者の望む声無くして、全日本大会の存続はあり得ない。繰り返すがスプリント競技の発展を望むものが、何を望んでいるのかを周囲に訴え続け、そのために自らが何をできるのか考え、行動に移さなければ、状況は何も変わらない。

競技と大会の今後の発展に向けて

▶競技の公平性の確保

競技の公平性の確保のため、本大会では下記 3 点に取り組んだ。

1. 地図を現地に可能な限り一致させる
2. 現地を地図に可能な限り一致させる
3. 不公平なコースセッティングにならないよう注意する

1 点目は、作図に関する項目である。近年スプリントの地図図式は頻繁に変更があり、微細な記号オブジェクトのサイズの変更等が多い。その図式の更新に対しても追従している最新の OCAD を利用して作図することが望ましい。また、スプリントにおいては、ルートチョイスやディシジョンポイントを増やすために、競技エリア内に仮設物を設置する場合がある。地図の加工も多いことから、プランナーも作図に関わることが望ましい。

2 点目は、地図に描かれているものを現地で再現することである。仮設物を設置するのであれば、どのように設置すべきか資料を作成し、資料通り設置されているか現地で確認する必要がある。公園であれば、植え込み等が突如として伐採されることも珍しくなく、現地での確認が重要である。

また、通過不能で描画された特徴物は、出来る限り物理的に通過不能にする必要がある。実際に、本大会でも通行不能の柵で描かれた腰の高さほどの手すりを、数名の競技者が通過し、失格となった。スプリント競技ではフォレスト競技よりも高速でナビゲーションを行っており、地図が読み取れなくなる瞬間が多くなってしまいう傾向にある。地図が読み取れなかった競技者は地図で通行不能と描画されていても、物理的に通行不能かどうかで判断してしまうことがある。

3 点目については、別項「コースセッティング」にて述べる。

3. 課題と反省（つづき）

競技と大会の今後の発展に向けて（つづき）

▶ 「競技の公平性の確保」のための役割分担

上記 3 点の実施および実施状況の確認のために、フォレスト競技以上に競技責任者に負担がかかることも多い。また渉外の都合上、コースや人員配置の変更、追加の仮設物の設置等、大会直前に集中力を要する場面・項目が多い。そのため、どこかで確認事項の抜け漏れが発生し、結果的に提訴や競技不成立に繋がるおそれがある。

そこで、本大会では、競技責任者の負担を分散するため、競技責任者補佐を 2 名配置した。一人は地図担当者とし、プランナーと協力しながら地図入稿を担当した。さらに、コントロールや青黄テープ、柵等のすべての設置物に加え、パトロール担当の運営者やコントロールガードの配置もすべて記載した設計図の作成も担当した。もう一人はブリテン担当とし、プログラムや公式掲示板等のドキュメント作成を担当した。競技責任者は、これらを確認・統括することとした。

上記分担は、大会直前期のリソース確保に効力を発揮し、各人の負担を軽減したのみならず、試走での確認事項漏れを防ぐという点でも良かった。マニュアル物が充実し、結果として大会当日の設置ミスや確認漏れを減らすことができた。

また、実際には競技責任者補佐だけでなく、資材担当、計算センターチーフ、実行委員長も競技の工程に関わっている。本大会の競技関係の工程に対し、下の表のような役割分担で大会を実施した。

役職	統括	地図	設置	ブリテン	試走	計時機材	設置資材
競技責任者	◎		○			○	
競技責任者補佐 1		◎	◎				○
競技責任者補佐 2		○		◎			
資材担当						◎	◎
計算センターチーフ						○	
実行委員長					◎		

◎：主担当者、○：補佐

本大会の反省事項として、資材確保・管理の競技責任者補佐を設けるべきであった。上記表の資材担当者は、競技の資材だけでなく、運営におけるすべての資材の確保を担当していた。競技資材が確保できていなければ、競技に致命的な影響を及ぼすことがある。また、資材確保の状況が、試走や準備に大きな影響を及ぼすこともある。競技の成立に直結するような資材の確保の工程が多い。

上記工程に対し、どれだけ人数を割くべきかについては、実行委員会によるだろう。工程に人数を割くほど、担当者間のコミュニケーションコストが増えてしまう。リソースや能力のある者がいれば、複数の工程を担当するのも良いだろう。実行委員長や競技責任者等よく話し合い、最適なチームをつくりあげることが望ましい。

▶ 「競技の公平性の確保」のための準備期間の確保

昨年度大会に引き続き、大会自体の運営の動き出しが遅く、そもそも運営にかけられる時間の全体量が少なくなってしまった。スプリント委員会の立場から、是正できるよう努力したい。

3. 課題と反省（つづき）

競技と大会の今後の発展に向けて（つづき）

▶コースセッティング

競技責任者、競技責任者補佐、プランナーは日本オリエンテーリング協会発行の『コース設定の原則（Principles for course planning）』および国際オリエンテーリング連盟（IOF）発行の『Guidelines for Course Planning Sprint Competitions』をもとに、コースセッティングを行った。また、コースセッティングにあたって、2021年および2022年の世界選手権大会のコースを参考とし、世界選手権やマスターズ大会に挑戦する選手を意識したコースセッティングであった。

過去の全日本スプリントと比較して、難易度が非常に高いコースを提供できたと自負している。アンケート結果や SNS 等の反応からすると、多くの参加者に高難易度のコースを楽しんでいただけたようである。高年齢クラスの参加者にも、チャレンジングなコースに好評を頂いた。

一方で、過度に詳細な読図が求められ、スプリントのコースとしては不適切であったという声も寄せられた。過度に詳細な読図を求めると、速いルートを見つけることが運に近くなり、公平性を損なうという指摘である。寄せられた意見を踏まえ、改善点について述べる。

コースセッティングについて、下記2点を反省とし、来年度以降の課題とする。

1. 過度に詳細な読図を求めることは避ける

- ・ ディジションポイントや方向転換が多いレグをつくるために、仮設柵を配置した。一方でこれによって、過度に詳細な読図を求める場面が増えてしまった。
- ・ 仮設物の設置をするのであれば、過度な読図を要求しないような設置に今後はしていきたい。

2. 複雑な階層構造のエリアをコースに含める際は、慎重に検討を行う

- ・ 複雑な階層構造のエリアをコースに含める際は、そのエリアの地図の事前公開、現地の写真や動画のブリテンへの掲載等も検討を行いたい。

▶競技時間

ブリテン 3.0 公表後に、高年齢クラスや中級者・初心者クラスの競技時間が短いのではないかと、というお問い合わせを頂いた。これを受けて実行委員会で再検討し、すべてのクラスで 30 分の競技時間であったところを、高年齢クラスおよび中級者・初心者クラスを 40 分もしくは 60 分への変更を行った。今後もイベント・スケジュールとの兼ね合いを考慮しながら、本大会のような余裕のある競技時間の設定を行うことが望ましい。改めて、お問い合わせいただいた方に感謝を申し上げる。

▶地図の縮尺

本大会では多くのクラスで縮尺が 1:4000 の地図を競技で使用したが、細かな読図が多く、1:3000 の地図を使用すべきであったクラスが多数あった。2022 年の世界マスターズ選手権大会では、詳細な判読を求められる競技エリアやコースであったため、35A 以上のすべてのクラスで 1:3000 の地図が使用されていた。来年度以降は、競技エリアやコースに応じて幅広いクラスで 1:3000 の地図を検討することが望ましい。

1:3000 の地図を使用したクラスが限られていた理由として下記2点があげられる。

1. コースの都合で地図が B4 サイズになるが、IOF 認証の地図印刷は実績がなかったこと
2. B4 サイズの地図はコストや手間が割高になってしまうこと

アンケート結果からは、多くの参加者がオリエンテーリングのコースや地図の質を求めており、また、多くの社会人世代は現状の参加費に不満がないことが窺える。そのため、上記課題を解決するために、参加費の値上げは選択肢の一つであると考えている。

4 主催者・問い合わせ先

主催者

▶主催

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

▶協力

荻田 育徳（栃木県オリエンテーリング協会）

山川 克則（栃木県オリエンテーリング協会）

▶実行委員長

瀬川 出（日本オリエンテーリング協会）

▶運営責任者

富山 稜真（千葉県オリエンテーリング協会）

▶競技責任者

鈴木 璃土（筑波大学体育会オリエンテーリング部）

▶実行委員長補佐

小柴 滉平

▶運営責任者補佐

石山 良太（三河オリエンテーリングクラブ）

田中 翔大（練馬オリエンテーリングクラブ）

▶競技責任者補佐

西下 遼介（上尾オリエンテーリングクラブ）

根岸 龍宏（筑波大学体育会オリエンテーリング部）

▶コース・プランナー

村田 千真（筑波大学体育会オリエンテーリング部）

イベントアドバイザー

▶イベントアドバイザー

石澤 俊崇（NPO オリエンテーリングクラブ・トータス）

スタッフ

▶パトロールチーフ

前川 光鷹

▶スタートチーフ

飯田 泰史

▶フィニッシュ・計算センターチーフ

濱野 奎

▶会場チーフ

藤原 悠平

安部 雄真、池ヶ谷 みのり、石野 夏幹、市川 竣介、伊藤 元春、岩城 美奈、大石 洋輔、桑 早穂、栗本 美緒、桑原 大樹、上妻 紅音、河野 隼司、後藤 孔要、小林 哲郎、小林 美咲、小林 璃衣紗、近藤 恭一郎、坂巻 朱里、佐野 萌子、清水 俊祐、高橋 利奈、竹下 恭成、田村 一紗、寺田 直加、寺町 俊輝、富山 詩央里、友田 雅大、名雪 青葉、長谷川 望、比企野 純一、深田 恒、松尾 七彩、森田 夏水、八房 穰、山口 雅裕、吉澤 佳奈

（公表時点）

▶渉外担当

笠原 健司

▶演出担当

小柴 滉平

▶広報担当

若月 俊宏

▶ブリテン編集担当

村井 智也、小柴 滉平

▶資材担当

若松 甫

▶表彰担当

明神 紀子

▶救護担当

山根 萌加

▶体験会チーフ

上松 遼

▶試走協力

永山 遼真

▶全日本オリエンテーリング選手権大会

ロゴデザイナー

伊藤 祐

▶全日本オリエンテーリング選手権大会

フィニッシュバナーデザイナー

鈴木 日菜

4. 主催者・問い合わせ先（つづき）

アンバサダー

▶日本学生オリエンテーリング連盟加盟校アンバサダー

池ヶ谷 雄太、犬山 瑛斗、猪股 紗如、今井 里奈、上田 皓一郎、植西 柳太、浴本 悠貴、榎戸 麻衣、大木 翔太郎、岡田 航太朗、加賀谷 湧、上島 じゅ菜、栗山 ももこ、坂根 歩実、坂巻 朱里、櫻井 千尋、佐藤 頌子、鈴木 遼賀、祖父江 有祐、田中 恵子、太矢 敦士、内藤 駿、波根 峻介、根岸 健仁、羽田 拓真、福田 有紗、二俣 真、細野 泉、堀内 颯介、牧島 滉平、溝端 昭子、宮岡 竜也、森江 菜々子、山崎 嘉津人、弓田 和生、用松 知樹

問い合わせ先

▶電子メールアドレス

jsoc@orienteering.or.jp（瀬川 出）

▶電話番号

03-5843-1907（日本オリエンテーリング協会 事務局）

Web サイト、SNS

▶大会 Web サイト

<https://www.orienteering.or.jp/jsoc/2022/>

▶全日本選手権大会 Twitter @orienteeringJOC

<https://twitter.com/orienteeringJOC>

▶全日本選手権大会 Instagram @orienteeringjoc

<https://www.instagram.com/orienteeringjoc/>

▶公式ハッシュタグ

#全日本スプリント

#全日本スプリント 2022





2023 年度 全日本オリエンテーリング 選手権大会

オリエンテーリングはもっと、おもしろい。

2023 年 **11 月 4 日 (土)** ミドル・ディスタンス競技部門

第 12 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (ミドル・ディスタンス競技部門)
The 12th Japan Middle Distance Orienteering Championships 2023

2023 年 **11 月 5 日 (日)** ロング・ディスタンス競技部門

第 50 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (ロング・ディスタンス競技部門)
The 50th Japan Orienteering Championships 2023

千葉県勝浦市 夷隅川東側 (南山田地区付近)

<https://www.orienteering.or.jp/joc/2023/>

2023 年度 **冬季** スプリント競技部門

第 16 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (スプリント競技部門)
The 16th Japan Sprint Orienteering Championships 2023

東京都 ????? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

<https://www.orienteering.or.jp/jsoc/2023/>

2024 年 **2 月 4 日 (日)** リレー競技部門

第 32 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (リレー競技部門)
The 32nd Japan Relay Orienteering Championships 2023

佐賀県 ????? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

<https://www.orienteering.or.jp/jroc/2023/>

アスリートとサポートスタッフのみなさんへ。

なぜ、私たちにとって、アンチ・ドーピングの
知識や活動が必要なのでしょう？

アンチ・ドーピングは、たんに
「不正する人を見つけ、不当な勝利を防ぐ」ための活動ではありません。

アンチ・ドーピングは、スポーツを成り立たせている
「みんながフェアであること」を守るためにあります。
全員がフェアでなければ、そもそもスポーツは成り立たない。
すべての人が、スポーツに参加し、公平に競い合うことができる。
その権利を守るために、アンチ・ドーピング活動があります。

そして、もうひとつ。アンチ・ドーピングは、
「スポーツが生み出す価値」を守るためにあります。
挑戦する心、相手へのリスペクト、そこから生まれる友情、
そんな、社会にとっても大切な価値を守るためにあります。

フェアであることを守り、スポーツの価値を守る。
そのいちばん中心となるのが、アスリートとサポートスタッフのみなさんです。
みなさんが、フェアであることをつねに誇りに思い、
その大切さを、世の中に示すこと。
それこそが、スポーツの発展を支え、よりよい社会をつくる力になります。

フェアであることの誇りを胸に、すばらしいスポーツの価値を、
ともに広めていきましょう。



勝利を超える価値がある

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構